

平成28年度函館市節電チャレンジモニター集計結果

1 節電効果（家全体の電気使用量）

モニター期間中の1ヶ月間の電気使用量を前年度と比較したところ、節電効果は、使用量599kWh、料金15,951円、CO2排出量401kg-CO2、削減率11.4%でした。

1世帯あたりの平均では、使用量40kWh、料金1,065円、CO2排出量27kg-CO2となり、この取組みを1年間継続すると、使用量480kWh、料金12,780円、CO2排出量324kg-CO2の節電効果が期待できる。

	電気使用量実績値		節電効果			削減率 (%)
	H28年度 (kWh)	H27年度 (kWh)	使用量 (kWh)	料金 ※1 (円)	CO2 排出量 ※2 (kg-CO2)	
	合計 (A)	合計 (B)	差 (B-A)			
第1期	2,781	3,097	379	10,093	254	12.2
第2期	1,930	2,150	220	5,859	147	10.2
合計	4,648	5,247	599	15,951	401	11.4
平均※3	273	309	40	1,065	27	

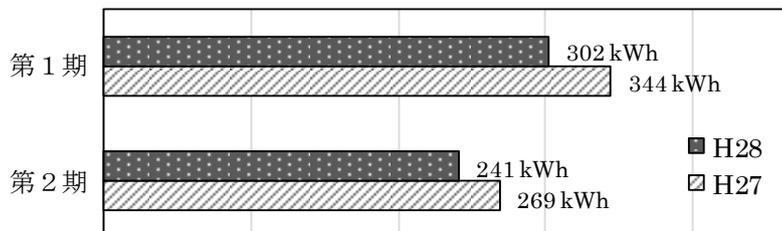
※1：料金の積算は、各モニター期間の北海道電力の従量電灯電力量料金の120kWh・280kWhまでの平均値1kWh=26.63円を用いた。

※2：CO2削減量の積算は、北海道電力の最新(集計時)の実排出係数1kWh=0.669kg-CO2を用いた。

※3：集計対象とした17世帯の平均

※端数処理の関係で合計が一致しないことがある。

電気使用量（平均）



主な節電行動（参加世帯が実践した主な節電の取組み）

主な節電行動	取組み世帯数		
	第1期	第2期	合計
待機電力の削減する	4	4	8
テレビを見ていない時は消す	3	4	7
照明の点灯時間を短くする	4	2	6
冷蔵庫の無駄な開閉はしない	1	1	2
洗濯はまとめて洗う	1	1	2
省エネタイプ家電(照明等)に交換する	1	0	1
パソコンを使わない時は電源を切る	1	0	1
室温は20℃にする	0	1	1
エアコンの設置温度を上げる	1	0	1
暖房の運転時間を短くする	0	1	1
冷蔵庫に物を詰め込まない	1	0	1
暖房の設定温度を低めにする	0	1	1
温水洗浄便座の温度を調整する	0	1	1
給湯器の温水を調理に使用する	0	1	1
照明の明るさ調節する	0	1	1
テレビを見る時間を減らす	0	1	1

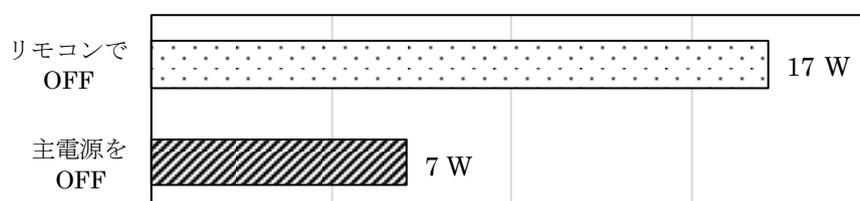
2 主な家電製品の消費電力

節電の参考とするため、主な家電製品の待機時と使用時の消費電力を、家電製品型電力測定器で測定してもらったところ、測定結果は次のとおりとなった。

待機時の電力（平均）

テレビの待機電力は、リモコンで OFF にするより主電源を OFF にした方が、平均で約 10W 消費電力が少ない結果となり、外出時や就寝時等の長時間使用しない時間帯は、主電源を OFF にすることで節電効果が期待できる。ただし、消費電力がほぼ同じ結果となる場合もあり、機種によっては違いが生じない場合もある。

取組品目	取組台数	リモコンで OFF (W)	主電源を OFF (W)	待機電力の差 (W)
テレビ	16	17	7	10

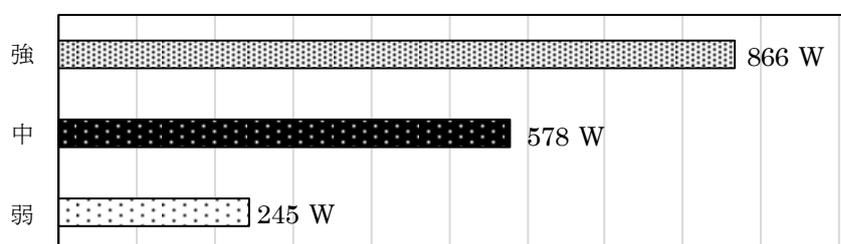


使用時の電力（平均）

掃除機の使用時の電力は、強さによって消費電力が大きく異なる結果となり、必要に応じて強さを調節することで、節電効果が期待できる。

なお、電力使用の気になる家電製品を自由に選択し測定してもらったところ、温水洗浄便座について温水ヒーターや便座ヒーターの使用状況により大きく消費電力が異なるなどの節電の参考となる報告があった。

取組品目	取組台数	強さ：強 (W)	強さ：中 (W)	強さ：弱 (W)
掃除機	13	866	578	245



3 意識して取り組んだ省エネ行動や感想

○電力測定器でどの家電の電気使用量が多いのか目で分かり大変役に立った。

○電気使用量を確認してこまめに電源を OFF にする習慣がついた。

○測定器の通信が切れる頻度が高いので、その度にリセットする作業が手間だった。

- 節電の事は以前から頭にあったのですが一人になってもあまり変わらないので、思い切って参加させていただきました。
- 結果としてまだはっきりしていませんが、これからは（節電）行動を多くして生活していきたいと思っています。
- 冷蔵庫も洗濯機も大きいと思っていますが、冷凍庫の使用をやめて、冷蔵庫一つにしました。
- 電力測定器を引き続き使用したい、格安で斡旋してほしい。
- 普段は特に無意識に使っていた電気でも、この家電でどのくらい消費されているのか？などが目にみえて確認できたので、翌日には使う時間を短くしたりと意識が変りました。
- 初めて使う測定器の数値を家族で見ながら楽しんでモニターをさせてもらいました。子どもは電気をこまめに消すこと。大人はパソコンの扱い方に気をつける事を目標にしました。
- 前年と比べて家族が家にいる時間が増えたので、結果は期待していなかったのですが、少しでも節電できたのが励みになりました。
- 生活の中で工夫できることは、まだまだあることを実感しました。
- 掃除機の強弱での測定値の違いには驚きました。「強」でかけるくせがあるので、床に合った強さを心がけたいと思います。
- 暖房をつける冬場の電力についても興味を持ちました。このような機会がありましたら挑戦したい。
- こまめに電灯を消す。
- 食洗器や衣類乾燥機をなるべく使わない（雨の多い時は使ってしまいました。）
- 除湿機がないとカビが発生するので常に使用しているため電気代が気になっていましたが、思ったほどの電気使用量ではなかったので安心して使えます。
- 電気ポットで湯をわかすようにしても使用量は増えず、ガス代の節約にもなりました。
- まだまだ節約できることがあるなあと、やる気が出ました。
- 使っている電力がそのまま金額として表示されるので、家族全員で、お金がかかっていると認識することができた。
- 冷蔵庫に物を詰め込まないことで、開閉時間も短くなった。
- 照明をリモコンで OFF にしない。

- 旅行で数日留守にする時に、温水器付便座を OFF にする。
- LED を利用して、なるべく使用していない時は消すようにしている。
- 次回は夏に（電力測定器を）利用したい。
- 冬はストーブを利用するため、その分電気使用量が増える。
- 年末年始休みが長く家にいる時間が多いため暖房機器を使う時間が長かった。よって節電がうまくできなかった。
- リビングの石油ストーブと照明を夜なるべく早く消すようにして、省エネに取り組んだ。
- 普段よりさらに節電を意識して取り組みましたが、目標を達成できず残念でした。とても良い経験（体験）をさせて頂きました。
- テレビやパソコンを使っていない時は、こまめに電源を切った。
- 分電盤設置ができないタイプだったのが、残念だった
- 節電成果の要因は、①昨年：ブラウン管テレビ→今年：液晶テレビ、②測定器によるウォシュレット待機電力最適化（おまかせ節電→おまかせ+タイマー節電）であった。
- 目標未達成の要因は、帰省による住人増と家族の反対により給湯器の温水を調理に使用できなかったことであった。
- 測定器表示の小数点が移動して確認し難かった。
- 古いテレビは夜中、主電源 OFF にしていたが、最新のテレビはリモコン OFF でもほとんど電力を消費しない事が判明した。
- 測定器での測定を初めて行いましたが、目でどのくらいの消費電力か確認できて勉強になりました。
- 昨年函館に引っ越してきて、子どもも自分で電気をつけたり、テレビを見る機会が増え、少しでも節電に取り組めたらと思い、家族で協力して取り組みました。
- 昨年末に結露が酷く除湿機を2台フル活用せざる終えない状況となり、使用量が増えてしまった。しかし、家族みんなで電気について考える良い機会となった。これからも節電に取り組みたい。
- 使っていない部屋や廊下の照明は、こまめに消しました。
- ワットモニターを使うことで、節電の意欲が高まりました。
- 節電はお財布にも環境にも優しいので、今後も続けて行いたいと思います。

○家庭の省エネ百科はとても参考になりました。ありがとうございました。

○電灯は、つけっぱなしにしない。

○トイレの電気パネルヒーターを昼間は OFF にする

○火口に空きがあれば電気炊飯器は使わずにガスを使って鍋でご飯を炊く。

○自宅で仕事をしているため、日中に電灯をつけたり夜中まで作業する日が多かった結果、照明、PC、プリンター、暖房の使用が増えて電気使用量が増えたのが悔しい。

【モニター実施概要】

1 モニター期間 第1期：平成28年 7月1日（金）～8月31日（水）
第2期：平成28年12月1日（木）～1月31日（火）

2 モニター実施世帯数 19世帯（第1期9世帯、第2期10世帯）

3 モニター内容

分電盤設置型（家全体）と家電製品型（家電製品毎）の2種類の電力測定器を利用して、家庭の電気使用量を「見える化」しながら節電に取り組んでもらい、モニター終了後にモニター期間の各月の電気使用量（電力会社の伝票で確認）および主な家電製品（テレビ、掃除機等）の電気使用量の測定結果等を報告してもらった。

4 集計方法

各月の電気使用量については、前年度同月の使用量と比較を行うため、当該年および前年度の対象月電気使用量を確認できて、世帯人数の増減などの大幅な生活環境の変化が無い17世帯を集計対象とした。